『潮江地区の住環境を考える　～皿ヶ峰を守る～』

チーム名　　高知工業高校生徒会

学校名　　高知県立高知工業高等学校

１．目的

本校の西側に鎮座する筆山は、校歌にも謳われるなど皿ヶ峰とともに本校にとって身近で親しみのある山であるとともに、都市部における緑地として、また、希少植物が生育している山として環境面でも重要な存在である。この筆山や皿ヶ峰が将来にわたって高知市の環境面で重要な存在であり続けるために、本校では生徒会を中心に筆山の保全活動を潮江小校区連絡協議会の「筆山を守り育てる部会」の方たちと行っている。この活動を通して、生徒たちが身近な自然や環境問題に対して関心をもち、自分たちにできることは何なのかを考え、実行できる大人になることを目的としている。さらに、地域の方たちとの交流、地域への貢献を通して、母校や地元に対する愛情をより大きく育んでもらうねらいもある。

写真 1.　筆山公園から見た高知市中心部

写真 2.　本校を見下ろす一角

２．活動内容

本校は来年度創立百周年を迎える伝統ある学校で、校内では百周年に向けて現在も様々な計画がなされているが、今年は記念植樹を行うことが前年度より計画されていた。植樹場所については最も親しみのある筆山に、しかも本校からもよく見える場所を、ということで本校を望むのに良好な場所を植樹場所に選んだ。樹種については桜を、その中でも病気等に強く、周囲に植樹されている他の桜とは異なる銘柄で、しかも下にある学校からでも見栄えが良いようにということで、シダレザクラを 2 本植えることとした。銘柄の決定にあたっては、「筆山を守り育てる部会」の國澤伸嘉氏、(有)葉山庭園の野島幸一郎氏と相談をした。また、植樹の日程については学校長らと相談の上、来年度の創立百周年記念式典が予定されている日と同じ 11 月 3 日とした。

私たちは昨年度も筆山や皿ヶ峰の除草、清掃などの保全活動を行ったが、今年度も引き続き記念植樹を含む保全活動を行った。

最初の活動は中間考査終了後の 6 月 4 日（土）に筆山公園山頂付近で行った。当日は「筆山を守り育てる部会」の方たちと午前中に作業を行い、雑草の除去やツツジの剪定などを行った（写真 3-4)。暑かったこともあり、展望台のある上段の全面とその東斜面が刈られたところで作業を終了した。

写真 3

写真 4

2 度目の活動は 10 月 8 日（土）の午前中に行った。この日程は記念植樹が 11 月 3 日を予定していたため、それ以前に植樹場所の整備を行うことを念頭に「筆山を守り育てる部会」の方々の都合を伺いながら決めたものである。この活動には生徒会だけでなく 1 年生から有志を募り、合計 24 名が集まった（写真 8)。前回よりも多人数であることや一人一人が競うように作業したため、整備した範囲は植樹予定地に加え、山頂付近や東面の下り口である階段周辺も行うなど、当初予定していた範囲を大きく超えた。作業前にはうっそうと生い茂る雑草に圧倒される思いであったが、参加者全員が熱心に作業に取り組んだ甲斐があり、作業前と後とでは趣が一変するほどきれいに整備された（写真 5-7)。また、当日はテレビ局の取材があり、同日昼のニュースで放送してもらっている。

写真 5

写真 6

写真 7

写真 8

記念植樹は雨の心配もあったが、予定通り 11 月 3 日（木）の午前中に行った（写真 9)。当初は自分たちの手で植樹に用いる穴を掘ろうという話も出たが、現地の地盤が硬くて人力では困難と判断し、事前に業者に機械で掘ってもらった。直前に行われた文化祭では各科、クラブの準備等で忙しかったが、合間を見て、桧の角材で「百周年記念事業」の語句が入った記念碑の制作を行った。また、当日は紅白幕や仮設テントを設置するなど式典会場の準備を行った。

記念式典には生徒会と有志の生徒 24 名、教職員、来賓 18 名が参加した。式典では國澤氏から植樹に至るまでの経緯の説明があり、生徒会副会長の黒川君から今後も生徒会を中心に筆山の保全活動に関わっていくことが宣言された。記念植樹は 4 名ずつ 2 ケ所で行われたが、式典終了後にも残った土で全員が土をかけた（写真 10)。記念碑除幕、学校長謝辞と進み、式典の最後には眼下に本校を望みながら全員で校歌を歌い、来年の百周年の成功を祈念した（写真 11)。

私たちは記念式典終了後も前述の野島氏より桜について話を聞き、同氏の指導で植樹した桜に肥料を与えた（写真 12)。私たちの想像した方法と違った形での与え方だったこともあり、楽しみながら肥料を与えた。

写真 9

写真 10

写真 11

写真 12

植樹には「高知県教育委員会」と「高知県森と緑の会」のお世話になり、植樹場所については筆山公園の中にあるため、「高知市みどり課」と「筆山を守り育てる部会」にお世話になった。この日もテレビ局の取材があり、夕方のニュースで放送してもらった。

3 度目の保全活動は 1 月 29 日（日）に予定されている。

３．地域の人々と協働

6 月 4 日の活動は「筆山を守り育てる部会」の方たちと併せて 15 名で行った。中高年の方たちとともに作業をするのに当初は少し戸惑ったが、作業を続けていくうちにだんだんと慣れていった。10 月 8 日の活動は同部会の他にも潮江小学校ＰＴＡの方も参加されるなど大勢で作業をすることができた。両度とも大変感謝をされ、地域に多少なりとも貢献していると感じられた。

「筆山を守り育てる部会」とは昨年度から協働で作業を行い、今後も一緒に筆山や皿ヶ峰の保全活動を行う予定である。

４．成果と課題

私たちは環境問題については様々なところで学んでいるが、世界的な環境問題や国内で話題となっている問題ばかりで、身近な問題については深く考えることがあまりなかった。筆山においても、学校の近くにありながら実際にはなかなか登る機会のない山で、今回の活動で筆山に登り、眼下に学校を望むことで一層親しみが増したように思える。また、作業の際にも雑草で埋もれていた通路や階段が現れ、通りがかった地元の方に感謝される場面もあり、嬉しさと満足感を得た仲間もいた。

8 月に生徒会の中から 3 人が若者ＥＣＯ応援隊合宿研修に参加した。ここでは物部川流域で見られる環境問題を物部川、三宝山、三嶺などの実地で学習したほか、夜は講演を聴き、グループワークに取り組んだ（写真 13-14）。この研修では、竹林を放っておくと厄介になること、里山の保全が豊かな自然環境を作るといった点が、自分たちの活動と当てはまることなので強く心に残った。

写真 13

写真 14

課題というほどのことはないのかもしれないが、「筆山を守り育てる部会」の方たちと協働で作業を行うので、お互いの都合のよい日が合わないことがあり、参加者が少ないことがあった。ただ、活動が 1 日限りではないので、1 日活動に参加できなくても、別の機会があるので、その点は少し気が楽のようである。また、今回は作業中にけがをしたり、脱水症状に陥る者がなかったのは良かった。今後も無事に活動を続けていきたい。

５　今後の取組

筆山や皿ヶ峰は本校にとっても、高知市にとっても、環境面で重要な存在である。これらの山のおかげで良い生活環境が保たれていることを理解し、今後も継続してこれらの山の保全活動に参加する。

植樹を行った場所は夏場には雑草がはびこり、樹木にも蔓が巻きつき樹木の生育に大きな問題が生じるような場所である。過去にも他の団体が植樹した桜が枯れてなくなっており、記念碑だけが残っているという悲しい光景も見えた。せっかく創立百周年を記念しての植樹だけに、百年先にも元気な姿を見せてくれるように学校を挙げて今後も保全活動に取り組んでいく。記念碑も木材を用いて製作したので、いずれは朽ちてしまうので、数年おきに作り直していく予定である。